



ミラノの見どころ



目次

観光	- 2 -
最後の晚餐 (サンタ・マリア・デッラ・グラッツェ教会)	- 2 -
ドゥオモ	- 3 -
サンタンブロージョ聖堂	- 4 -
サン・ナザーロ・マッジョーレ教会	- 4 -
サン・シンプリチャーノ教会	- 5 -
サン・ロレンツォ・マッジョーレ聖堂	- 6 -
サンタ・マリア・デッレ・グラツィエ教会	- 6 -
サン・テウストルージョ聖堂	- 7 -
サン・ヴィットーレ・カルポ教会	- 7 -
スフォルツェスコ城	- 8 -
ブレラ美術館	- 8 -
レオナルド・ダ・ヴィンチ国立科学技術博物館	- 9 -
アンブロシアー美術館	- 9 -
ポルディ・ペッツォーリ博物館	- 9 -
考古学博物館	- 10 -
買い物	- 10 -
ドゥオモ広場・ガッレリア・ヴィットリオ・エマヌエル2世・スカラ座広場	- 10 -
メルカンティ広場	- 11 -
モンテナポレオーネ通りとスピガ通り	- 12 -
ヴェネツィア大通り周辺〜ブエノス・アイレス大通り	- 12 -
ティチネーゼ・ナヴィリオ地区	- 13 -
食べ物	- 13 -
食料品	- 13 -
パニーニ	- 14 -
スイーツ	- 15 -
ハッピー・アワー	- 15 -
ピザ	- 16 -
レストラン	- 16 -
ミラノの観光地図	- 18 -



ミラノの見どころ



ミラノには、世界遺産は一つしかありません。レオナルド・ダ・ヴィンチの『最後の晩餐』があるサンタ・マリア・デッレ・グラツィエ教会とドメニコ会修道院です。しかし、世界遺産でなくても、それに匹敵するかそれ以上の観るべきものが色々あります。それだけではなく、ミラノには、世界中の女性をひきつけるファッションがあり、その最先端を引っ張っているブランド店が立ち並んでいます。他のイタリアの観光地と同様に、2,3日の旅行ではミラノの一部しか味わえないと思います。しかし、そうは言っても、お金と時間には限度があるので、短時間で効率的に見て、買って、食べて、歩いて、ミラノを楽しまなくてははいけません。

このガイドは、ミラノを凝縮して、厳選したものだけを紹介しています。従って、4,5日でも十分にミラノを味わってもらうためのものです。

観光、買い物に分けてガイドします。

●観光

ミラノの観光ではまずせないところだけを凝縮しました。

最後の晩餐（サンタ・マリア・デッラ・グラッツェ教会）

サンタ・マリア・デッラ・グラッツェ教会に隣接したドミニコ修道院の食堂の壁に描かれたものです。教会右手の教会付属の司祭館のアンティーク・ルームにある博物館入り口から入り、内部の背面壁にあるのがダ・ヴィンチが1495年から1497年に描いたあの有名な世界遺産の「最後の晩餐」です。従来のフレスコ画と違った技法を彼が用いたため、この絵の保存状態はあまり良いものではなかったのですが、現代の技術を生かし、細心の注意を払った長期間の修復の結果、見事に甦りました。サンタ・マリア・デッラ・グラッツェ教会に関しては後述しています。



ドウオモ



ドウオモは、ミラノを代表する芸術的・宗教的建築物であるだけでなく、イタリア後期ゴシック建築の傑作であり、ミラノ市民の誇りでもあります。4世紀のローマ時代に城壁内に建立された聖堂の位置に今のドウオモが建てられています。このローマ時代の聖堂は、サンタ・マリア・マッジョーレ聖堂と後に聖女テクラ（*1）にささげられサンタ・テクラ聖堂の2つであったことは確認されています。

ドウオモの地下 4~8 メートルはレンガ積みの空洞になっていて、ドウオモの入口近くから入って見学できます。そこには、今でもサンタ・テクラ聖堂の跡と聖ジョバンニ・アッレ・フォンティ洗礼堂の遺跡を見ることが出来ます。聖ジョバンニ・アッレ・フォンティ洗礼堂は、同じ時期に、聖アンプロージョがサンタ・テクラ聖堂の隣に建立し、聖アゴスティーノの洗礼が行われたと言われています。

現在、ドウオモは聖母マリア（マドンニーナ）誕生に捧げられている大聖堂となっています。ドウオモの創建は 1386 年にジャン・ガレアツツォ・ヴィスコンティの望みにより着手し、奥行き 57 メートル、幅 92 メートル、面積 11700 m²の大きさを誇り、建設には 500 年以上の歳月がかかっています。マッジョーレ湖のカンドリアの薄桃色の大理石が使われ、この大理石はティチーノ川を運搬船で運び、その後、ナヴィリオ・グランデを通り、現在のラゲット通りの位置にあたるダルセナ（船だまり）まで運ばれてきたものです。

ファサードは約 3 世紀にもわたる大論争（1500 年代のペッレグリーニにはじまり、1813 年になってやっと最終結論に至る）の結果、出来上がったものであり、他のどの部分にもまして様々な様式があわせ加わっています。大門は 17 世紀様式で中央バルコニーは 1790 年の作であり、三つの上部窓は 1800 年代初頭につくられました。5 つの身廊で構成されている聖堂内部は、圧倒されるほど壮大なものです。堂々たる柱、天井の高さ、優美なアーチは多色の見事なステンドグラスから差し込む美しい光と身廊を取り囲む威風堂々たる彫像装飾によりさらなる価値を高めています。ドウオモの尖塔は全部で 145 にも及び、最も高い尖塔は 108.5 メートルもあり、そこに置かれています。この像は 3900 枚の金板で出来ておりミラノを

に設置されたものでミラノのシンボルとなっています。ドウオモの外壁には 2245 体もの彫刻があり、表面の大理石はピンクや紫に変化してドウオモを更に際立たせています。尖塔の間を散策するドウオモの屋根の上に登ることができます（階段 5 ユーロ、エレベーターは 7 ユーロ）。ここからはミラノの素晴らしいパノラマを眺望することが可能です。



(*1) 聖女テクラは聖パウロの弟子での一人です。紀元一世紀にキリスト教に改宗したため、父親の差し向けた兵に追われシリアのマアルーラ（ダマスカスの北東 56Km）の山に逃げ込み、彼女が祈ると山が 2 つに割れて開き、彼女はそこを通過して逃げる事が出来た（マアルーラの町の名はこの時の山の割れ目又は入り口に由来している）と言われている聖女です。この地域は、今でも住民のほとんどがキリスト教徒であり、聖テクラ修道院が今も現存しています。

サントンブロージョ聖堂



サントンブロージョ聖堂はミラノのシンボルともいえる教会で、379 年に聖アンブロージョ(*2)が、殉教者であるサン・ジェルヴァジオとサン・プロタジオの墓の上に建立しました。祭壇の下の地下納骨堂には聖アンブロージョとともにこの 2 人の殉教者の遺骨が納められています。その後 12 世紀までに内陣と修道院が異なる建築様式で建設されています。

正面右の「司祭の鐘楼」と左の「修道院」の鐘楼もこの間に建てられました。ロンバルディア・ロマネスク建築の傑作です。内部は 3 身廊となっていて控えの間や一番の見どころである礼拝堂へと続いています。礼拝堂は 15 世紀末から 16 世紀初期のもので、10 世紀の彩色と漆喰で飾られた祭壇天蓋その下の黄金祭壇も見所となっています。祭壇右側奥の礼拝堂は 4 世紀に建てられたもので 5 世紀のモザイク画で飾られています。祭壇左側の女子修道院の内陣と回廊に続き聖堂宝物庫があります。聖堂宝物庫は 2 ユーロで入ることが出来ます。

サン・ナザーロ・マッジョーレ教会



ミラノの中心部から郊外へと放射線状に伸びる道路の一つに面した重要な教会です。この教会は 382 年に聖アンブロージョ(*2)が十二使徒のために建設しました。ミラノ最古の教会でもあり、使徒達の遺品も保存されています。教会は 1075 年の火災の後に旧構をたどって再建され、1571 年にはカルロ・ボッロメオの意向で改築されました。その後、数世紀の間は構造的変化はほとんど見られていません。

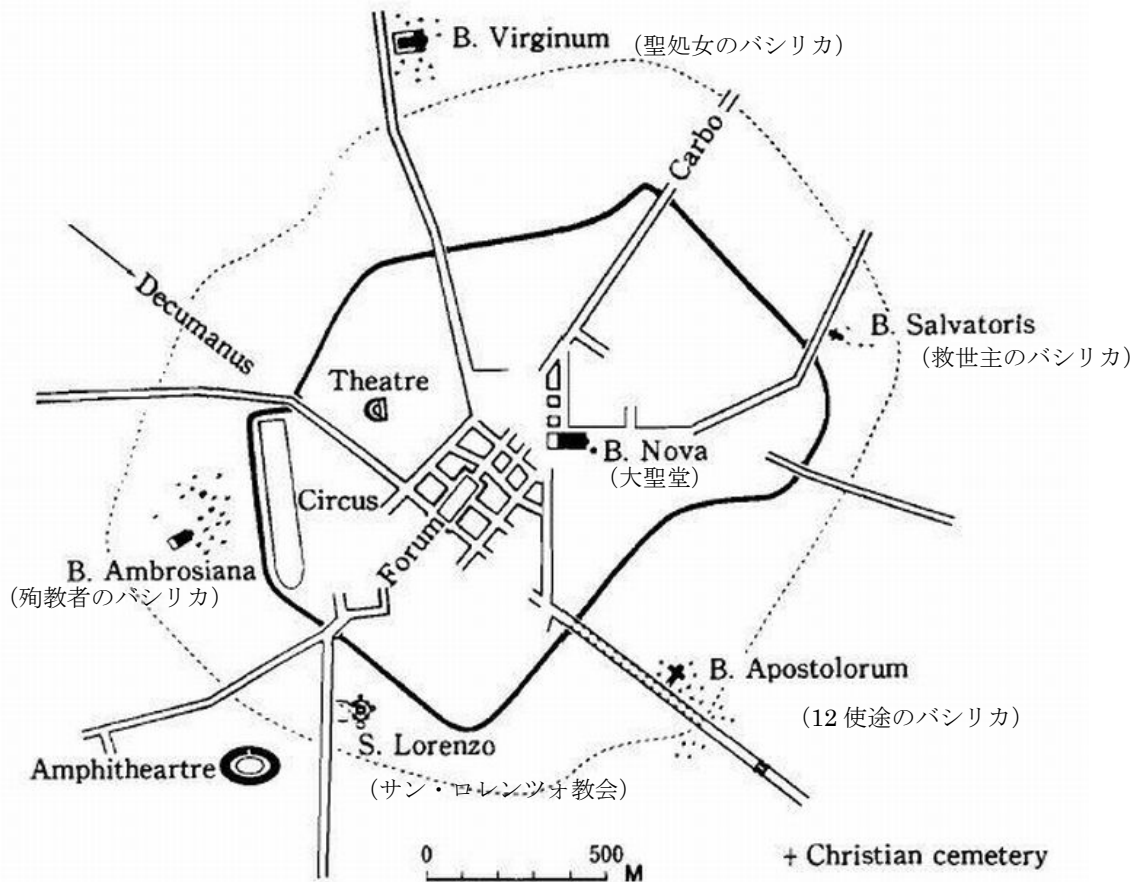
最終的には 1946 年から 1963 年までに現在の姿となりました。ギリシャ十字のデザインは東方の影響を受けたキリスト教殉教思想の典型です。5 世紀の記録からルネッサンス時代の作品や新古典時代のものまで考古学的遺品や芸術作品が数多く残っています。トリブルツィーオ礼拝堂は身廊へと直接導く入り口で内部は八角形、外観は正方形となっています。内部が質素なことについて、この教会が豊かではなかったからという説がありましたが、最近では設計者や持ち主がそのように意図したものとされています。

サン・シンプリチャーノ教会



聖アンブロージョ (*2) が聖処女に捧げるために4世紀後半に建設したブレア美術館の北東に位置するロマネスク様式の教会です。度重なる改築により姿を変え、当時の面影は正面扉周辺に残るのみです。内部は高い天井が広がりを感じさせ、後陣のクーポラに“聖母マリアの戴冠”があります。地下には建立当初の礼拝堂の一部が残されています。

(*2) 聖アンブロージョはミラノの守護聖人です。4世紀後半に、ミラノ司教であった聖アンブロージョは城壁外に4つのバシリカを建立しています。“殉教者のバシリカ”（現サンタンブロージョ聖堂）、“聖処女のバシリカ”（現サンシンプリチャード聖堂）、“12使途のバシリカ”（現サンナザーロ聖堂）と今は無き“救世主のバシリカ”（Basilica Dionigi）である。大聖堂とそれぞれの教会の位置関係は概ね図1の通りです。これらの教会は、西欧古キリスト教に準ずるもので、聖人崇拜及び聖遺物崇敬儀礼に基づいたものといわれています。ローマ時代の大聖堂であったドウオモを含む現存する聖堂は、全て、ロマネスク期又はゴシック期（ドウオモ）に改築改修が行われていて、ローマ時代の面影を見るのは難しい状況です。



400年頃の Mediolanum（ミラノ）の地図

サン・ロレンツォ・マッジョーレ聖堂



ローマ時代の城壁の外、円形競技場の近くに建てられたこの聖堂は、美術史のみならず西洋キリスト教建築史上でも貴重な建物です。ラヴェンナのサン・ヴィターレやアキスグラーナ聖堂に比肩されています。4世紀末から5世紀初めにかけて度々改築を繰り返し、現在の円蓋などは16世紀のスタイルが取り入れられています。

聖堂前のコリント式の13本の柱列及びコンスタンチン像、聖堂、4つの塔、側面の礼拝堂、他のローマ遺跡からのブロックを数多く使った土台など、初期キリスト教時代のものも残っています。内壁は、下部は大理石、上部はキリストや聖人達を描いたモザイクで覆われています。

右手には、聖アクイーノ礼拝堂へと続くローマ時代からの大きな長方形の入り口があり、礼拝堂は八角形で、聖ロレンツォと聖イッポリートの納骨所がありますが、実は西ローマ皇帝の霊廟との説もあります(*3)。



1937年から1938年にかけて現在の聖堂の姿に復元されました。外には、313年に皇帝となりキリスト教に自由を与えたコンスタンチン像の複製があります。他には、傘の形をした円蓋と初期キリスト教時代のモザイクが見所です。

聖アクイーノ礼拝堂は有料で2ユーロ。

(*3) サン・ロレンツォ・マッジョーレ教会は、聖アンブロージョが建立した4つの教会（現存しているのは3つ）と同時期に建てられています。但し、聖アンブロージョとの関連はどんな文献にも言及がないので別の創建者がいると想像できます。また、他の聖堂は全てロマネスク期及びその後のゴシック期に改築改修が施されていますがサン・ロレンツォ教会だけは初期キリスト教建築の壮麗な原型をとどめているのも特異な点です。従って、大聖堂（後のドゥオモ）及び聖アンブロージョが建立した4つの教会とは一線を画して扱われています。ミラノ司教であった聖アンブロージョは神とキリスト同一視していないアリウス派をミラノから駆逐する等、ミラノでは時のローマ帝国の皇帝（テオドシウス一世）よりも力が強かったため、それを煙たく思っていた（一時期破門されていた）皇帝には別の礼拝堂が必要であり、それがこの教会であった。即ち、サン・ロレンツォ教会は、皇帝の宮廷付属礼拝堂であったのではないかと有力な説があります。教会正面のコリント式の柱列はそれを裏付ける要素としては十分なように見えます。

サンタ・マリア・デッレ・グラツィエ教会



1466年から1490年にかけて建設されたこの教会の長い建物はロンバルディア派ゴシック様式です。1492年に回廊をデザインしたブラマンテのプロジェクトにも加わったジュニフォルテ・ソラーリが設計しました。ドヴィーコ・ディ・モロが建築を命じ、スフォツァ家の霊廟として建てられ、伯爵やその妻ビートリス・デステや家族に関係



のある者、また彫刻を収容するためのものとなりました。



ブラマンテによる記念的な建築は、後期ゴシック様式の身廊と視覚的に対照的に造られています。教会に隣接して1469年に完成したドメニコ会の修道院があります。後に、ブラマンテが回廊や聖具室を改築しました。またレオナルド・ダ・ビンチによる最後の晩餐のフレスコ画で有名となった食堂もあります。

ブラマンテの手がけた正面や、ロンバルディア派ルネッサンス建築の支配的モチーフとなったテラコッタ装飾の回廊も興味深いものです。サンタ・マリア・デッラ・グラッツェ教会とドメニコ修道院は、最後の晩餐と共に世界遺産に登録されています。

サン・テウストルージョ聖堂

中世の伝統の印ともいえる本建物は、司教エウストルージョ二世により古いキリスト教墓地とエウストルジョー一世の遺骨を保存していた小教会(*4)跡に建てられたものです。後陣の背にはルネッサンス表現の最高峰であるポルティナーリ礼拝堂が置かれており、ミラノのバンコ・ディ・メディチの代表者、ポルティナーリの命によりつくられてもので、ポルティナーリ本人の遺骨とともに、異端者に虐殺された殉教者聖ピエトロの遺骨も保存されています。墓地の跡は教会内で見ることが出来ます。また、フレスコ画や多色の装飾のほどこされたクーポラは大変貴重なものであり、ヴィスコンティ夫妻の墓の祀られているヴィスコンティ礼拝堂は高い価値のあるものです。裏の公園はサン・ロレンツォ教会までつながって、市民の憩いの場となっています。ポルティナーリ礼拝堂は有料で6ユーロ。

(*4)この小教会の由来は、聖エウストルジョがキリスト誕生の時にベツレヘムを訪ねた3賢者の遺骨をここに隠したことから始まります。伝説によると、3賢者は、キリストの処刑後に、またベツレヘムに戻り、キリストの教えを広めようとしたために殉死させられました。

その遺骨は4世紀初頭にコンスタンティノーブルに運ばれていたのですが、4世紀後半にミラノ総督のエウストルジョがこれを受け取り、ミラノに運んできて城壁外のこの地に聖堂を作り埋葬したそうです。



サン・ヴィットーレ・カルポ教会

この初期キリスト教聖堂はミラノでも最も古い建築物の一つで、サン・ヴィットーレとサン・サティロの遺品を収容するために建てられました。サン・マルティノ・コルプスの小礼拝堂(700年に解体された)の遺跡があるほか、サン・グレゴリオの八角形の霊廟は16世紀から風景画に描かれておりその古さがわかります。八角形の礼拝堂は急速に広まったアンブロジーの洗礼スタイルの原型です。新しいオリーブ型の棟の建設は1508年、教会は1560年に再建が始まり、設計者は定かではないが、ガレアッツォ・アレッジともヴィンセンツォ・セレーニともいわれています。未完成の正面がどのように完成するのも興味深いところです。



16 世紀にオリベターニによって再建された旧サン・ヴィットーレ修道院は、16 世紀前半の修道院建築としても貴重なもので、今はレオナルド・ダビンチ科学技術博物館になっています。

スフォルツェスコ城

1368 年にまずギアン・ガレアツォ・ヴィスコンティが防衛機能を備えた城の建設に着手しました。その後、彼の後継ぎであるギアン・ガレアツォがその作業を引き受け、軍建築家マガッティの手により城の増築が行われました。1447 年に破壊され、また 1450 年から 1500 年の間にかけてフランセスコ・スフォルザがミラノ統治中に再築を手懸けています。元々の城砦は街の壁を運河で囲むように造られていて、この城は四方に塔が立ち、掘りがめぐらされた 200 平方メートルの四角形に設計されています。後の支配者の依頼で住居に改築され、新しい塔など（中でも最も重要なものが建築家フィラレテにより設計された）、豪華な装飾が付け加えられました。15 世紀後期にはルドヴィコ・イル・モロがレオナルド・ダ・ヴィンチとブラマンテに作品の製作を依頼しました。1500 年、スフォルザ家の支配が終局を迎えることになり、城は軍事目的に使用され、その後相次ぐ改築が行われ結局城は荒廃の道を辿ることになりました。1893 年建築家ベルトラミが 10 年をかけて再建工事を完成させてこの城は徐々に文化・芸術を目的に使用される建築物になりました。第二次世界大戦後再度改築工事が行われ市立博物館となりました。



ヴィスコンティ家とスフォルツァ家: ヴィスコンティ家は 1277 年から 1447 年までの中世からルネッサンスの始まりの時代、ミラノを治めました。1395 年には神聖ローマ帝国から、ジャン・ガレアツォ・ヴィスコンティに「ミラノ公」の称号が授与されました。の死後、相続者がいないままフィリッポ・マリア・ヴィスコンティが死去した後、スフォルツァ家がその後を継ぐことになりました。

ヴィスコンティ家の紋章「白蛇」はミラノの伝統的象徴の一つとなっています。重要なミラノの傭兵隊長の系列であったスフォルツァ家は、1535 年までミラノ公国を治めました。スフォルツァ家統治下の時代、ミラノは黄金の輝きを持つ時代をむかえました。

ブレラ美術館



美術館の入っている建物は、1615 年にフランチェスコ・マリア・リキニがマルティノ・バッシの設計を元にして建てました。その後神聖ローマ帝国女帝 Maria・テレジアも増築に携わり、何度も修復が繰り返され、そのすべてが完了したのは 6 年かけた修復の後の 1991 年です。美術学校として 1776 年に設立され、1882 年に美術館となってい



ます。1400年から1900年代までのイタリア内外の有名作品を所蔵し、ラファエロの「スポザリツィオ・デラ・ヴェルジネ」、A・マンテーニャの「死せるキリスト」、ピエロ・デラ・フランチェスカの「聖母と聖人たち」、エルコレ・デ・ロベルティの「玉座の聖母と聖人たち」などがあります。
入場料 EUR5

また、この周辺にはお洒落なカフェやレストランが並んでいて、観光客に人気が高く、観光客が絶えることはありません。

レオナルド・ダ・ヴィンチ国立科学技術博物館



物理科学の世界を探求できるおもしろいミュージアムです。2対の回廊によって囲まれている主要建物は昔ベネディクト修道会によって建てられたもので、1500年からはオリヴェタニが使用していました。1953年にはロンバルディの工場主の援助によって博物館として再建されました。

記念碑、鉄道、海洋船舶があり、織物、鉄鋼、モーター、交通、テレコミュニケーション、天文学そして情報関連の部門があります。最も重要な部門「レオナルド・ダ・ヴィンチ美術館」では木製の軍事器具や飛行機械、科学器具、橋、要塞などが彼のデザインに基づいて再現されています。蒸気機関車のあるリバティ駅の再現もあります。

入場料 大人 EUR8

アンブロシアー美術館

1618年にフェデリゴ・ボッロメオ枢機卿の要請によって設立され、ヴェネツィア、ロンバルディア、フランドルやその他の流派の絵画、ブロンズおよび大理石作品を展示しています。

レオナルド・ダ・ヴィンチの「リトラット・ディ・ムジコ」、カラヴァッジオの「果物籠」、ラファエロの「アテナイの学堂」のためのスケッチ等を所蔵しています。見所は、ボッティチェリ、パルミジャニーノ、ティツィアーノ、ティエポロなどの作品です。

入場料 大人 EUR8



ポルディ・ペッツォーリ博物館



博物館はジャン・ジャコモ・ポルディ・ペッツォーリの邸宅で、17世紀には美術収集家だった貴族の一家が所有していました。その後、ジュゼッペ・バルツァレットの設計によって1853年から1854年にかけて再築されて現在に至っています。従って、多くの美術品が所蔵されています。

インテリアは私立博物館の中でも特に際立っていて、所蔵品とその背景の雰囲気素晴らしい。モローネ通りとマンツォニ通りが交差する街の中心にある十字路に位置しています。1881年開館。絵画、考古学遺物、武器、絨毯、陶器、ガラス製品、腕時計そして宝石類を所蔵しています。ポッティチェリ「聖母子」、ポッライウォーロ「女性の肖像」がみどころです。

入場料 大人 EUR8

考古学博物館



サン・マウリツィオ教会を付属していたマッジョーレ修道院だったこの博物館には、古代ローマ時代から古代ギリシャ、エトルリアから中世のものまで様々な作品が展示されていますが、ミラノのローマ時代の遺跡から収集された展示品は一見の価値があります。また、ローマ時代のミラノがどうなっていたのかもわかりやすく説明しています。庭園では24面持つ古代ローマの塔や城壁の一部を見ることが出来ます。

入場料 大人 EUR2、市立博物館・美術館の共通券は7ユーロ

●買い物

ミラノでの買い物は楽しみの一つです。また、買い物しながらでもミラノの代表的な建物を見ながら有名な広場のカフェで一休みして、街行く人のファッションを眺めるのもミラノの良い思い出になります。

ドウオモ広場・ガッレリア・ヴィットリオ・エマヌエル2世・スカラ座広場



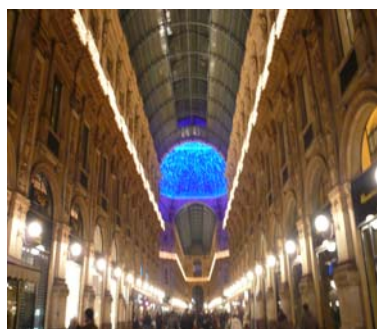
地下鉄ドウオモ駅からドウオモ広場に出たときに感動を覚えない観光客はいません。圧倒的なドウオモとその隣にあるガッレリアは圧巻です。この広場は観光客のたまり場であるだけでなく、ミラネーゼにとっても、ミラノの中心として誰もが親しんでいます。多くの人がこの広場にたたずみ、食べ物屋台、物売り、街頭芸等が毎日出ていて、いつも賑やかなところです。

ドウオモ広場からドウオモの横を通りサンバビラ駅までは、リナシャンテを初めとした有名店及びカフェが立ち並び、毎日ミラネーゼの流れが絶えません。

ドウオモ広場に面したガッレリアは、ミラネーゼの誇りです。1865年から1878年の間に建設され、ドウオモ広場とスカラ座広場を結んでいます。その雰囲気ゆえに「ミラネーゼのサロン」と呼ばれていて、有名ショップやレストラン、流行のバルや本屋などが



多く集まっている華麗な場所でもあります。



スチールとガラスの高い中央円蓋を持つ十字型構造で構成されていて、47メートルにおよぶアームの交差する丸天井部分にはアジア、アフリカ、ヨーロッパ、アメリカの4大陸の絵がモザイクで描かれています。今日各種イベントや特別展示の舞台となっている中央の八角形スペースは赤字に白十字というサヴォイア王朝家紋のある床の上にあります。有名なプラダの本店もここに 있습니다。ここは、観光客とミラノ市民で人通りが耐えたことがありません。

ガッレリアを抜けるとスカラ座広場に出ます。ダ・ヴィンチの像が広場の真ん中にあり、右にマリーノ宮、左に有名なミラノのスカラ座があります。

このスカラ座は、イタリア・オペラ界で最も有名で伝説的な位置を占めています。デュカール劇場が大火で破壊されてしまった後、1776年からピエル・マリーニがデザインを手掛け、中央のボディの両側にはあとから付け加えたテラスがあります。ポーチの中に入ると、G. フランチによるレリーフ「アポロのチャリオット」を拝むことができます。



この伝説的な建物の内部に、5列のボックス席とギャラリー（棧敷席）からなる蹄鉄型のホールがあり、すばらしい音響効果と空間を考えた構造との実に見事なコンビネーションが実現しています。これが、ここでの上演が歴史に残っている理由のひとつです。名門オペラ・カンパニー「ラ・スカラ・ディ・ミラノ」の本拠地で、ミラノで最も活気のある文化の発信地です。リハーサル中で無ければ、スカラ座博物館から内部を見ることが出来ます。

スカラ座博物館入場料：5ユーロ

メルカンティ広場

ドゥオモの近く、ミラノ経済生活心臓部にあるこの特色ある広場は、中世から17世紀当時のミラノ文化を代表する歴史的建築物に囲まれています。すなわち、ラジョーネ宮、通称パニガローラの家と言われるノタイ宮、王立学校、そして、オシイ家の回廊等です。この回廊の中心にある「パルレラ」と呼ばれるバルコニーから法令や裁判結果などがミラノ市民に発表されたとのこと。

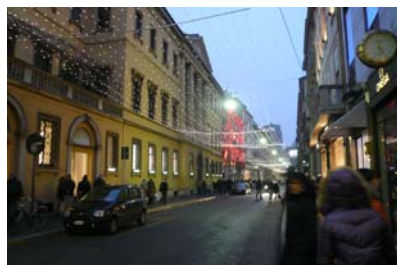
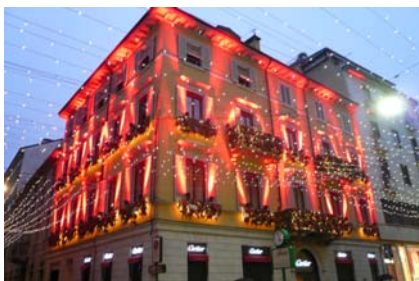


この広場は、また、商人、職人、店主の集まる場所であり、日々の商いの繰り広げられる舞台でもあります。この広場にあった商品の交換場所を囲んでいた6つの門や、隣接する通りなどには、その当時の主な職業の名前がつけられています。すなわち、アルモラーリ（武器職人）、スパダーリ（刀職人）、カッペラーリ（帽子職人）、オレフィチ（金細工職人）等です。

ラジョーネ宮はメルカンティ広場の中心部に民事訴訟・刑事訴訟の場として1233年に建立されました。そして、1770年までコムーネ市庁舎であり、戦後、リナッシエンテ百貨店が置かれていました。ファサード部分には、特徴的な薄彫りに加えて、半分を毛で覆われたイノシシ（雌豚）を表す彫刻があり、目に入ります。

メルカンティ広場とメルカンティ広場を抜けてスフォルテウエスコ城までのダンテ通りは、いつも賑やかです。歩行者天国となっていて、お洒落な店やカフェが並んでいます。いつも露天商も並んでいます。催し物があるとここに市が立ちます。特に、メルカンティ広場には、クリスマスから年明けまでは市が出て、他の店が閉まっていますが、ここだけはいつも賑やかで、人が絶えることはありません。

モンテナポレオーネ通りとスピガ通り



有名なブランド店が並んだ通りです。この通りが世界のファッションをリードしていると言っても過言ではありません。品数は世界中のどこよりも多いとのこと。

このエリアは、ローマ時代の城壁から始まっています。その後、貴族の邸宅が数多く立ち並んだ通りでもあります。今は、高級ホテル、博物館及び超高級ブランド店がそれらの邸宅を利用しています。この通りを歩くミラネーゼも高級なファッションに包まれていますし、ここに停めてある車もフェラーリなどの高級車が多いので、ショッピングだけでなく、これらを見て歩くのも楽しみの一つです。

ヴェネツィア大通り周辺～ブエノス・アイレス大通り

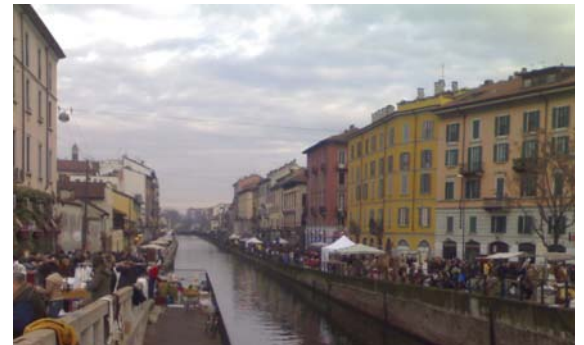
市の中心部からは少し北。住民にも観光客にも馴染み深い通りが走っているのがこのエリアです。ヴェネツィア大通りもその一つです。昔から貴族の豪壮な邸宅が立ち並ぶところで、宮殿のいくつかには今でも人が住んでいるものもあれば、立派なオフィスとして生まれ変わったものもあります。ポルタ・ヴェネツィアに隣接する公園はミラノでも有数の美しさを誇ります。さらに北には、ミラノー大きな商業道路であり、デパートなどの店も多いブエノス・アイレス大通りが走っています。

地下鉄のアクセスも良いこのエリアで、週末のショッピングを楽しむミラネーゼで賑わっています。また、このあたりには、移民が多く住んでいることもあってコスモポリタンな雰囲気です。エスニック料理を味わえるレストランが多数あることでも知られています。



ティチネーゼ・ナヴィリオ地区

ミラノの南西部に位置するこの地区には、古くからの住人、新しく入ってきた人々が混ざり合って暮らしています。たくさんのカーセ・ディ・リングエラ（バルコニーつきのアパート群）が見られる場所です。20世紀初頭は労働者階級の町でしたが、アパートの改良が進み、現在では建築家やアーティスト、ファッションデザイナー達も好んで住み生活雑貨や服飾関係の店、バー等がたくさん立ち並び若者に人気です。



メルカトーネ・デッランティックアリアート・デル・ナヴィリオ・グランデは、この地方で一番の知名度を誇るストリート・マーケットです。市南西部にある運河、ナヴィリオ・グランデ（運河）の岸沿い2キロほどにわたって店が開かれます。



1982年以來、厳選された約400のアンティーク・ディーラーが家具や時計、陶磁器、銀製品、人形、おもちゃ、本、ラジオ、古着、その他ありとあらゆる品物のストール（屋台）を並べて商う姿が見られます。マーケット開催時には、この界隈の店や工房も開いていて、昔の面影を残す建物の中を見ることができます。地元の伝統文化に親しむ絶好のチャンスです。リーパ・ディ・ポルタ・ティチネーゼ（ポルタ・ティチネーゼ河岸通り）沿いにもストールが出ます。

各ストールにはナンバーが打たれており、見てまわりやすくなっています（偶数がナヴィリオ・グランデの岸沿い、奇数がポルタ・ティチネーゼ河岸通り沿い）。ここで、素敵なバーゲン品をゲットしましょう！

毎月最終日曜日 8:30~18:30

🌍食べ物

食料品

PECKは1883年創業の老舗の食料品店です。日本にも日本橋及び新宿高島屋に入っているそうです。ミラノが本店で、高級ブランド食料品というランクで人気があります。ミラノのPECKに入って買い物をしている人は、どう見てもお金持ちにしか見えません。さすがに、元王室及び特権階級御用達です。



確かに、選りすぐりの高品質なものを売っているようで、高いのですが、何時もお客さんがいっぱいです。それにどれも美味しいと評判です。ドウオモ広場からトリノ通りに入り、直ぐにあるデパートUpimを右に入ったところにあります。

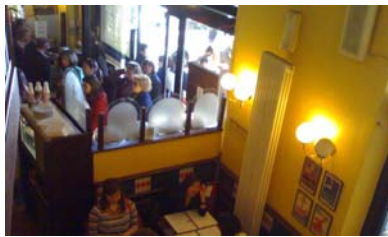


1月5日広場のCoinという2流デパートの地下にEataly(イーターリー)という自然食品とスローフードの専門食料品店があります。本店は冬季オリンピックで有名なトリノで、ミラノはその支店です。日本でも代官山に出店しています。トリノの本店と比べるとかなり小規模ですが、中にはイート・インもあってかなりお洒落です。

ここは、早く言えば、PECK と普通のスーパーの間に位置する食料品店です。要するに、PECK より安いのですが、スーパーよりは高めです。

どちらの店も、ほぼ、同じものが日本でも売っているそうです。但し、すべて、イタリア製の食料品ですので、ミラノでは、日本で売っている値段の半分以下で買うことができます。

パニーニ



ミラノでも一番人気のあるパニーニの専門店(カフェ)はパニーノ・ジュストです。チェーン店ですが、ドウオモ広場の王宮の横を通り抜けたところが本店で、いつも客が入りきれずに、入り口に行列が出来ています。客は観光客よりもミラネーゼが多く、本当に美味しいことが分かります。

メニューにもジュストというパニーニがあり、生ハム、トマト、アンチョビー等にマスタードが入っていてやはりこれが一番美味しいので人気です。カプチーノ等の飲み物と混みで、7ユーロくらいです。ミラノでは、ドウオモの他に、ポルタ・ヴェネチア、コルソ・ガルバルディ、ナヴォリオ運河のそばのポルタ・テチネーゼにもあります。これらの店はドウオモの本店よりはお客さんが少ないので、そちらで食べる方が良いかもしれません。この店も、横浜のそごうの地下と青山に出店していますが、日本ではあまり人気はないようです。日本では、周りの環境もミラノとは全く違いますので、いろいろな面でミラノの味を出すのは難しいと思います。



もう一軒、パニーニが美味しい店があります。マジェンダ大通り沿いにありますが見逃してしまいそうなほど非常に小さい店で、名前はDa Santisと言います。パニーニは、6~8ユーロとちょっと高めですが、すごく色々な種類があります。

生ハム、ハム、サラミ、ローストビーフ、サーモンや海老まであります。挟む野菜の種類、パテの種類、ソースの種類も色々ありますので、選ぶのが非常に難しいので、注文するときは、店の人に今日は何が美味しいのか聞いたほうが良いと思います。ここは、イタリアでは珍しくタバスコを隠し味で使っています。この店は、リナシャンテにも入っていますが、ミラネーゼが言うにはマジェンダ大通りの店のほうが美味しいそうです。

スイーツ

セレブ御用達のイタリアンスイーツで有名なのは **COVA** です。モンテナポレオーネ通りにあり、1817 年創業の老舗カフェで、ナポレオン軍の兵士であったアントニオ・コヴァ（Antonio Cova）によってミラノのスカラ座の傍らにオープンしました。時は革命の嵐吹き荒れる 19 世紀ヨーロッパ。ナポレオン・ボナパルト率いるフランスによる支配も束の間、再びミラノがオーストリアの支配下に帰することとなります。



1848 年にはオーストリア・ハプスブルク家に対する市民の叛乱、「ミラノの 5 日間」の会場場所として COVA が利用され、その名を歴史に残します。また、ここでヴェルディが椿姫の楽譜を書いたとの話もあります。店内には美味しそうなケーキが並んでいます。ブランド街の買い物に疲れたら、ここに入りケーキを選んで飲み物を注文し、席でゆっくりしたくなります。カフェですが、お菓子とチョコレートがありますのでお土産としても購入できます。この店も、高級イタリアンスイーツとして日本に出店（有楽町の駅前）しています。



もう 1 件、1893 年創業の Giovanni Galli という老舗のお菓子やさんがミラネーゼのお気に入りです。一口大のチョコレートが美味しいそうですが、それ以上に、マロングラッセがこの店の名物です。マロングラッセもチョコレートも、1 つ約 1.5 ユーロで、20 個入りの箱詰めで 28~30 ユーロ（目方売り）です。結構高いのですが COVA よりは安い。

但し、マロングラッセは、15 日間しか日持ちがしないので、お土産にするときは注意してください。本店は、ドゥオモの近く、トリノ通りの一つ裏の通りにあります。また、同じ店が、ミッソーリのそばのポルタロマーナ通り沿いにあります。ここは、純粋なお菓子屋なのでカフェはありません。

ハッピー・アワー

ミラノの夕食は遅い時間から始まります。レストランも、8 時半、9 時頃になって、やっと人がいっぱいになります。ですから、その時間までにお腹がすいてしまうので、それまでは食前酒とスナック類を食べる習慣があります。この週間はアヴェリティーボというのですが、それを狙って、バルやカフェでは、夕方の 6 時頃からハッピー・アワーと銘うって、1 杯のドリンクで軽食を食べ放題のサービスをしています。ドリンクは、ワイン等のアルコール類でもソフトドリンクでもかまいません。1 杯で 6~8 ユーロを払うと、カウンターに並べられた軽食類が食べ放題なのです。もちろん、これでちゃっかり夕食としてしまう人が結構います。ハッピー・アワーのサービスをやっている店を見つけるのは簡単で、数多くのバルやカフェの入口にハッピー・アワーと書いてありますので、その店に 6 時頃に入り飲み物を注文して、後は、カウンターに並べられたもの

を皿にとって食べるだけです。但し、飲み物をおかわりすると追加料金ですから気をつけてください。

ハッピー・アワーでは、まず、何を食べたいかで店を選ぶことです。チーズの店、魚の店、中華の店等、いろいろな種類の店があります。最近人気のあるのは、カルパッチョ等の生魚の店です。日本人の中には、醤油とわさびを持参していく人もいます。ブレラ・エリアには人気の店が多いので、参考に2件紹介します。1件目は、Da Claudio です。ここは、カルパッチョが豊富です。2件目は、Mozzarella Bar・Obika です。この店は六本木ヒルズにも支店を出しているのを知っている人が要るかもしれません。両方ともブレラ・エリアにあります。人気店ですから開店時間に行きましょう。

ピザ

イタリアといえばピザですが、ミラノでは、ファーストフードに位置づけされていて、それほど有名な店はありません。ピザは、どちらかと言うと南イタリア、特にナポリが有名です。従って、ミラノのピザの店もナポリ本店のチェーン店が多いようです。その中でもソロ・ピザやロツソ・ポモドーロが美味しいと評判のチェーン店です。チェーン店以外では、ミラノのピッツェリアとして、ブエノスアイレス通りにある Sponti とナヴィリオ運河沿いの Premiata のピザが美味しいと評判です。

●レストラン

最後は、ミラノのレストランです。これが一番難しい。ミラノには数え切れないレストランがあります。この中から数件のレストランを挙げるのは不可能です。例え、ここで名前を挙げたとしても、絶対にそこよりも美味しいレストランを見つけられるでしょう。ミラノでは、美味しくないとレストランを見つけるほうが難しいのです。ほとんど外れはありません。その中で、どこが美味しいかは、もう、個人の好みの問題といわざるを得ません。それに、金額もピンから切りまであり、どうしても間違いなく美味しいものが食べたいのなら、ピンのレストランに行けば食べられます。高級ホテルのレストラン、例えば、伝統あるグランドホテル・エ・ディ・ミランのドン・カルロス等なら間違いありません。それでも、なんとか、リーズナブルな金額のレストランを数件挙げてみます。但し、これはあくまで参考であって、これらの店よりも美味しい店はいくらでもありますから、皆さんで探してください。

ドウオモ周辺では、たくさんのレストランが日本語メニューまで揃えて、日本人でも不自由なく料理を選べます。その中で、3件挙げます。1件目は、ミラノ大学のそばにある Antica Osteria Del Laghetto です。小さなお店ですが、肉料理も魚料理も満足できると思います。2件目は、トリノ通りの裏にある Ristorante Lautrec です。ここは、ミラナーゼのお気に入りの店です。但し、日本語メニューはないと思います。3件目はメルカンティ広場にある Al Mercante です。ここは、味よりもロケーションと雰囲気

最高です。

ナヴィリオ運河周辺も美味しいレストランがいっぱいあります。どこも美味しいのですが、敢えて名前を挙げると、**Locanda dei du e mes**がお奨めです。ミラノ中央駅の方面にも美味しいレストランがたくさんあります。その中で、魚料理が好きな人には、**Al Cuoco di Bordo**がお奨めです。

スロー・フード・レストランについても書く必要があります。ミラノはイタリアでは有数の都会であり、その食材は全国各地から運ばれてきますので、スロー・フードの粋（地方の食材を地方で食する）の中に入るのは難しいので、ミラノにはスロー・フード協会に認定されたレストランは少ないのです。でも、いくつかは存在します。そんなレストランは、ミラノっ子たちのお気に入りでもあり、非常に混んでいて予約も難しいのが現状です。でも、その食材と味はすばらしく、一度は行ってみる価値があります。値段は、食材にこだわっている為にミラノでは少々高額ですが、高級レストランよりはるかに安く、目玉が飛び出るようなことはありません。ポルタ・ロマーナにある**トラットリア・デル・ペスカトーレ**（漁師のレストラン）のロブスターのサラダは絶品です。

ミラノ市内にも、このように数限りなく美味しいレストランはあるのですが、イタリア人のお気に入りには、スロー・フードの食文化の原点とも言うことが出来る、ぽつんと田舎にあるレストランです。田舎の街や畑の真ん中にあるようなレストランに、車で食事に行くのが彼らの大好きな習慣の一つで、そのようなイタリア人は、美味しいレストランはミラノのような都会にはないと言います。そんな事はないと思いますが、確かに、田舎のレストランは、食材の生産地に近く、しかも雰囲気や味方にしていることもありより美味しく感じます。たまたま、ミラノの田舎（サン・ドナート）に住んでいることもあって、近くのレストランに行きますが、本当に美味しいのでお奨めです。このあたりの有名レストランは、駐車場も大きく、ミラノ市内からの客で夜になると賑わっています。ドウエ・オルシ、オステリエッタ及びサン・ジュリアーノにある**La Rampina**が有名です。また、リナーテ空港周辺では、**モン・ルエ**も有名でいつも混んでいます。

ミラノの観光地図

